

4. 高齢者生活アンケート調査・要介護認定者生活アンケート調査の概要

本調査は、名張市老人保健福祉計画・介護保険事業計画の見直しにあたり、高齢者の方々の生活実態や、保健及び福祉へのニーズ等を把握し、計画に反映させるための基礎資料とするため、名張市内の65歳以上の高齢者と要介護認定者の中から無作為抽出により対象者を絞り実施しました。

(1) 調査基準日及び調査期間

- ① 調査基準日 平成26年2月1日現在
- ② 調査期間 平成26年2月14日～平成26年3月7日

(2) 調査対象者及び実施方法

調査の種類	高齢者生活アンケート	要介護認定者生活アンケート
対象者	65歳以上の高齢者 (要介護・要支援認定者除く)	65歳以上の要介護・要支援認定者 (施設サービス利用者除く)
対象者人数	16,716人	2,600人
抽出人数	1,800人	700人
抽出方法	圏域ごとに無作為抽出	
結果入力対象者	1,293人	434人
回答率	71.8%	62.0%
調査方法	郵送法(配布・回収を郵送で行う)	

(3) 日常生活圏域別 回答率

圏域 番号	日常生活圏域	高齢者生活アンケート			要介護認定者生活アンケート		
		抽出者	回答者	回答率	抽出者	回答者	回答率
1	名張・鴻之台希央台	207人	152人	73.43%	96人	64人	66.67%
2	蔵持・梅が丘・薦原	218人	152人	69.72%	92人	55人	59.78%
3	桔梗が丘・美旗	530人	395人	74.53%	194人	107人	55.15%
4	つつじが丘・国津 比奈知・すずらん台	479人	340人	70.98%	165人	94人	56.97%
5	錦生・赤目・箕曲 百合が丘	366人	253人	69.13%	153人	85人	55.56%
	不明	—	1人	—	—	29人	—
	計	1,800人	1,293人	71.83%	700人	434人	62.00%

(4) 調査結果からみえてきたもの

調査結果については、下記のとおり記載しています。
 高齢者生活アンケートの回答者 …… 一般高齢者
 要介護認定者生活アンケートの回答者 …… 認定者・要介護認定者

① 生活状況について

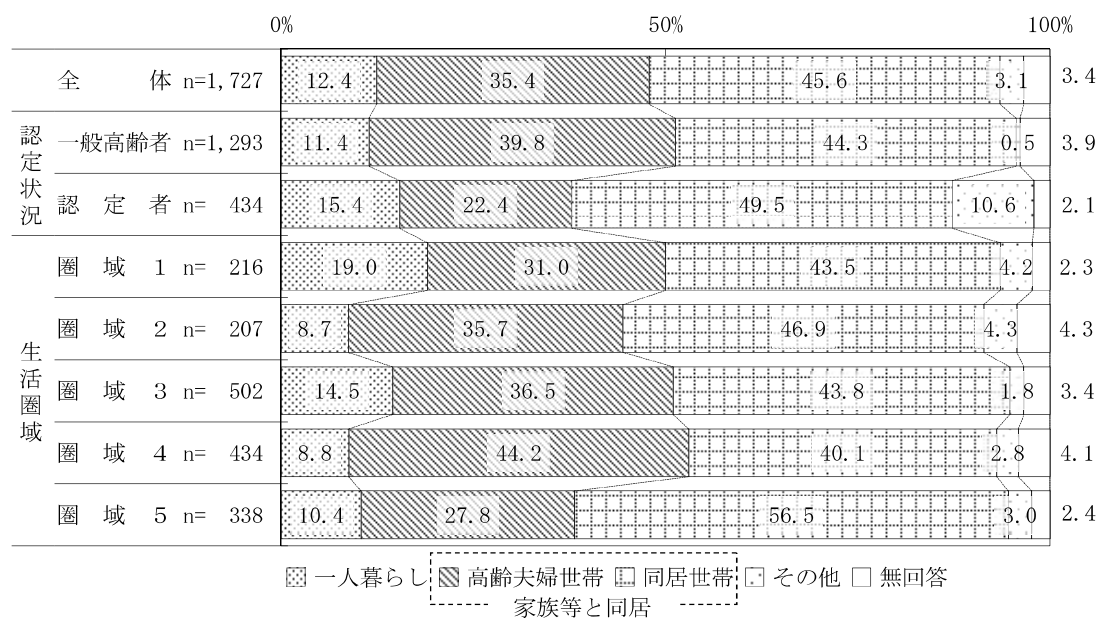
孤立する可能性のある高齢者に対して、円滑な日常生活を送るための支援が必要です。

○世帯構成 同居家族の有無

高齢者全体のうち、12.4%が「一人暮らし」です。

生活圏域別にみると、圏域1が最も高くなっています。

図表1-1 世帯構成

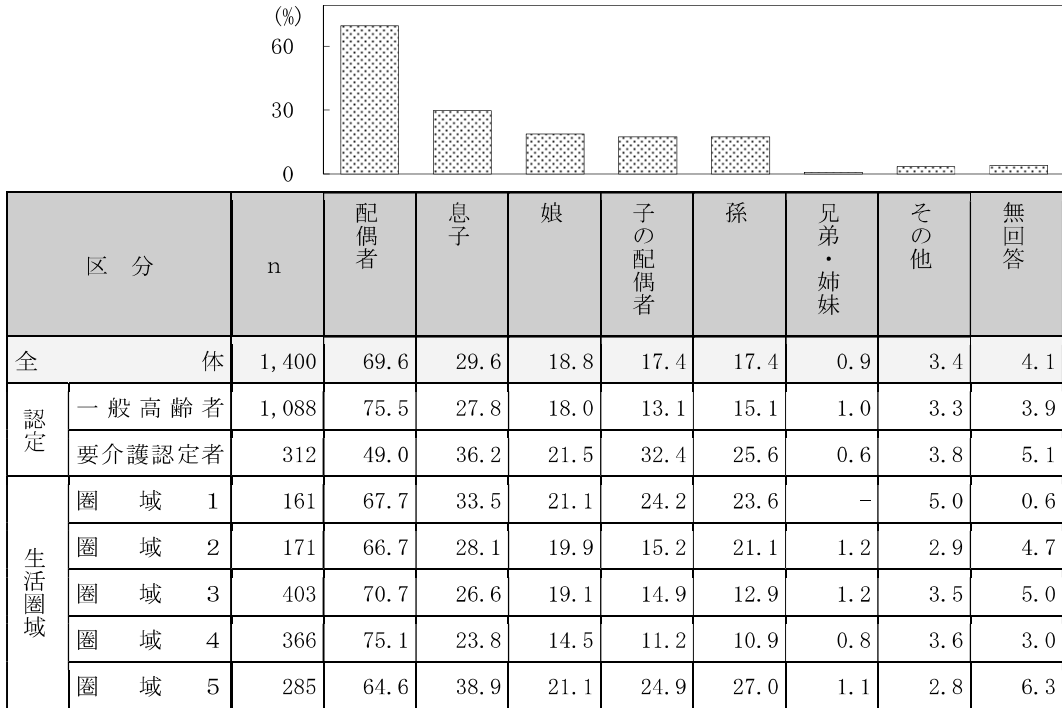


○同居の家族【同居家族有りの方】

同居している家族は、「配偶者」が69.6%と最も高く、次いで「息子」(29.6%)、「娘」(18.8%)、「子の配偶者」および「娘」(17.4%)の順となっています。

図表1-2 同居家族(複数回答)

単位：nは人、他は%



○日中の独居状態【同居家族有りの方】

「ひとり暮らし」以外の人に、日中、一人になることがあるかをお聞きしたところ、「よくある」は30.6%です。

図表1-3 日中、一人になることがあるか



② 近所づきあいについて

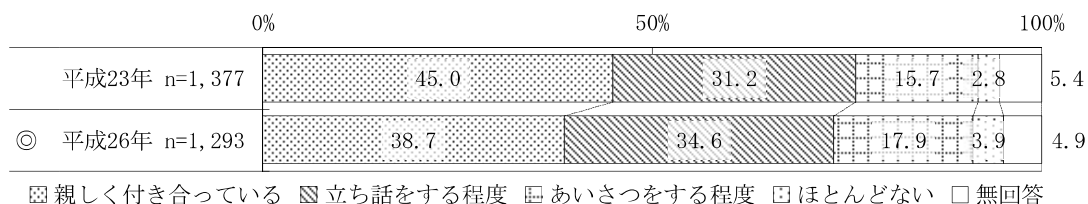
○ご近所との付き合いの程度

一般高齢者は、「親しく付き合っている」が38.7%、「立ち話をする程度」が34.6%、「あいさつをする程度」が17.9%です。平成23年の調査結果に比べ付き合いの深度が浅くなっています。

認定者は、「ほとんどない」が27.9%と最も高くなっています。平成23年の調査結果と比較して、最も深い付き合いを表す「親しく付き合っている」だけが低下しています。

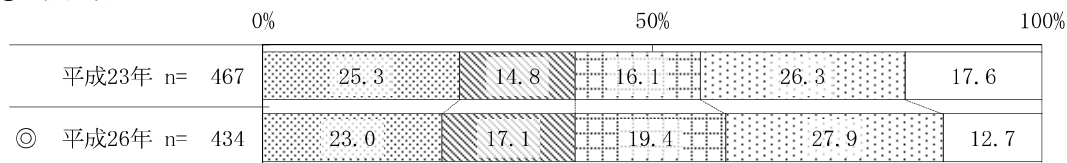
図表2-1 近所づきあいの程度

① 一般高齢者



☒ 親しく付き合っている ☒ 立ち話をする程度 ☒ あいさつをする程度 ☒ ほとんどない ☐ 無回答

② 認定者



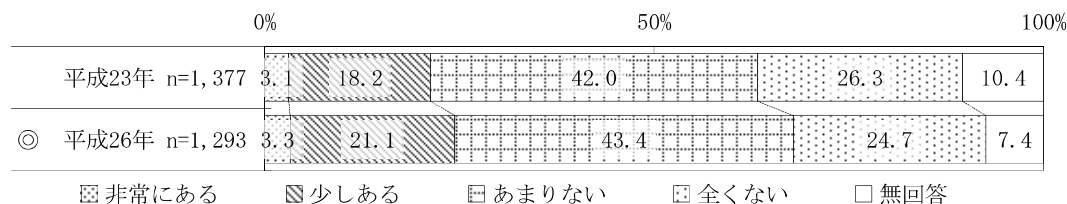
☒ 親しく付き合っている ☒ 立ち話をする程度 ☒ あいさつをする程度 ☒ ほとんどない ☐ 無回答

○ご近所との付き合いが薄れている不安について

「非常にある」と「少しある」の合計《ある》は、一般高齢者が24.4%、認定者が28.5%です。

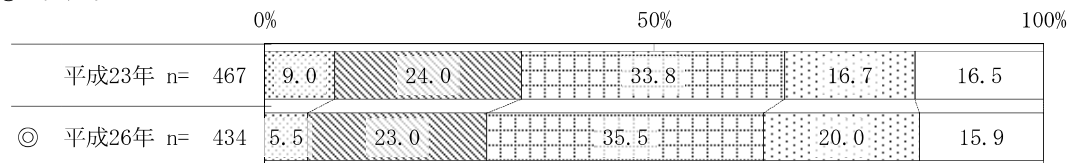
図表2-2 近所づきあいが薄れている不安

① 一般高齢者



☒ 非常にある ☒ 少しある ☒ あまりない ☒ 全くない ☐ 無回答

② 認定者

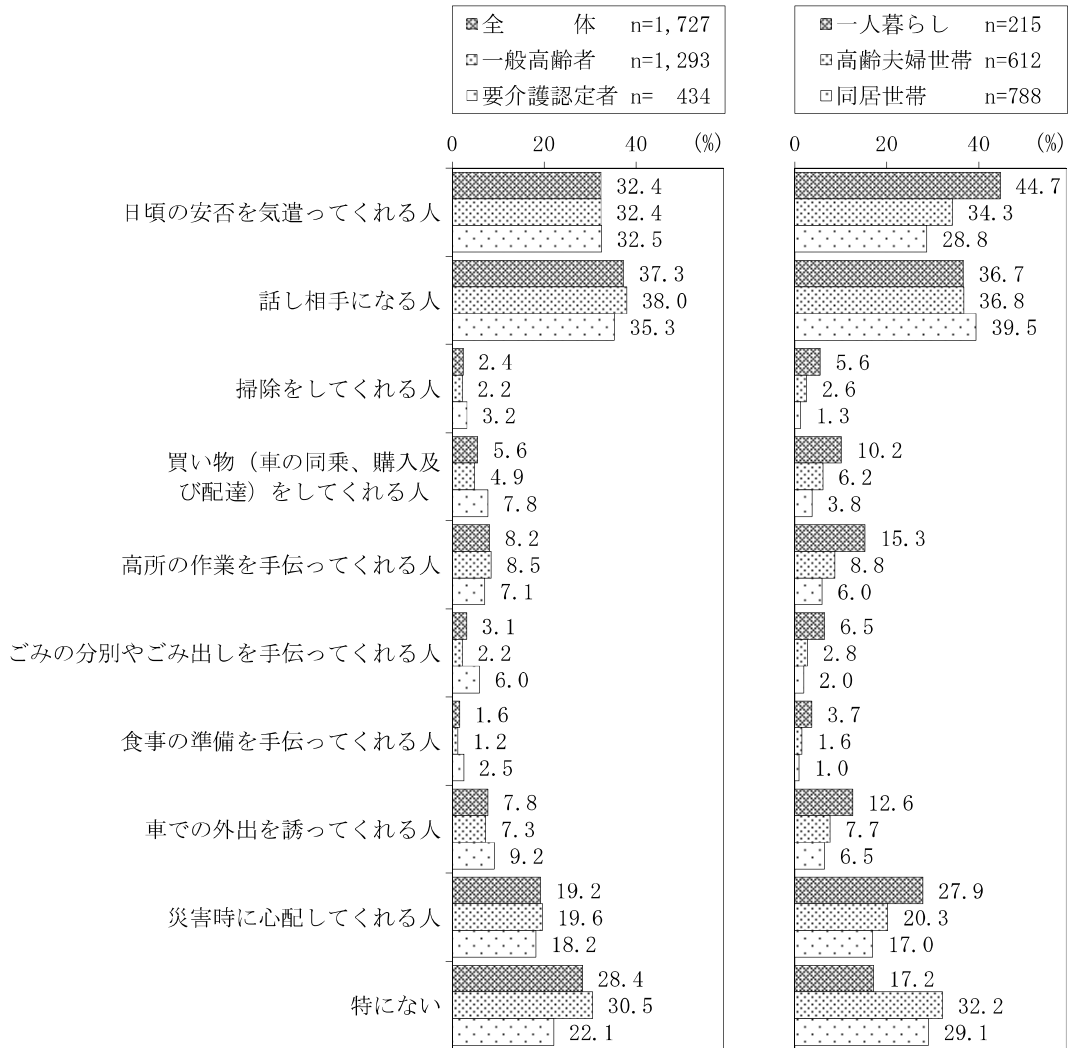


☒ 非常にある ☒ 少しある ☒ あまりない ☒ 全くない ☐ 無回答

○ご近所にどのような関係の人がいればよいか

「話し相手になる人」が37.3%と最も高く、次いで「日頃の安否を気遣ってくれる人」が32.4%、「災害時に心配してくれる人」が19.2%などの順となっています。

図表2-3 近所にどんな人がいたらいいか（複数回答）



③ 社会参加について

○地域活動等への参加について（複数回答）

会・グループ活動について、「週4回以上」、「週2～3回」、「週1回」、「月1～3回」、「年に数回」の合計《参加している》人の割合は、①ボランティアのグループが22.9%、②スポーツ関係のグループやクラブが25.1%、③趣味関係のグループが35.7%、④老人クラブが17.7%、⑤町内会・自治会が34.9%、⑥学習・教養サークルが17.2%、⑦その他の団体や会が27.1%となっています。

図表3-1 会・グループ等への参加頻度

単位：nは人、他は%

区 分	n	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答	《参加している》
①ボランティアのグループ	1,727	1.2	3.4	2.6	7.5	8.2	65.3	11.8	22.9
②スポーツ関係のグループやクラブ	1,727	2.6	7.3	4.7	5.2	5.3	63.8	11.1	25.1
③趣味関係のグループ	1,727	1.6	5.4	6.3	14.8	7.6	54.9	9.4	35.7
④老人クラブ	1,727	0.3	0.9	1.2	6.0	9.3	73.4	9.0	17.7
⑤町内会・自治会	1,727	0.3	0.7	1.2	7.1	25.6	55.0	10.1	34.9
⑥学習・教養サークル	1,727	0.3	1.4	1.7	7.1	6.7	71.5	11.2	17.2
⑦その他の団体や会	1,727	0.9	1.9	2.0	6.4	15.9	61.6	11.4	27.1

(注) 『参加している』 = 「週4回以上」 + 「週2～3回」 + 「週1回」 + 「月1～3回」 + 「年に数回」

○社会参加活動や仕事の活動頻度

「週4回以上」、「週2～3回」、「週1回」、「月1～3回」、「年に数回」の合計《活動している》人の割合は、①見守りが必要な高齢者を支援する活動が7.7%、②介護が必要な高齢者を支援する活動が5.0%、③子どもを育てている親を支援する活動が3.7%、④地域の生活環境の改善(美化)活動が25.7%、⑤収入のある仕事が15.9%となっています。

図表3-2 社会参加活動や仕事の活動頻度

単位：nは人、他は%

区 分	n	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	していない	無回答	《活動している》
①見守りが必要な高齢者を支援する活動	1,727	0.5	0.8	0.9	2.1	3.4	81.0	11.3	7.7
②介護が必要な高齢者を支援する活動	1,727	0.5	0.5	0.5	1.2	2.3	82.7	12.2	5.0
③子どもを育てている親を支援する活動	1,727	0.5	0.3	0.2	0.8	1.9	84.0	12.2	3.7
④地域の生活環境の改善(美化)活動	1,727	0.5	0.5	1.2	3.3	20.2	62.7	11.7	25.7
⑤収入のある仕事	1,727	7.2	3.4	0.9	2.1	2.3	73.0	11.1	15.9

(注) 『参加している』 = 「週4回以上」 + 「週2～3回」 + 「週1回」 + 「月1～3回」 + 「年に数回」

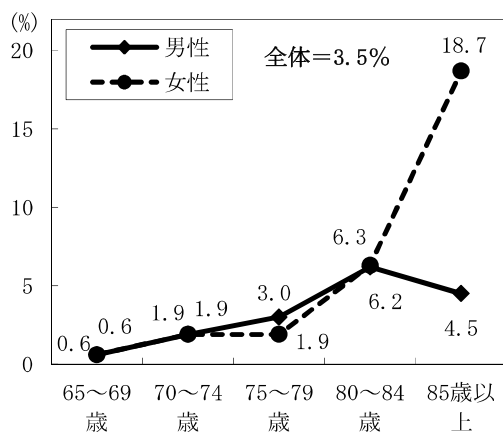
④ 閉じこもりについて（高齢者）

一般高齢者の 3.5%がリスク該当者となっています。男女とも年齢が上がるほどリスク該当者の割合が徐々に高くなる傾向にあります。84歳以下では男女にほとんど差がありませんが、85歳以上になると女性は18.7%に急上昇しています(①)。

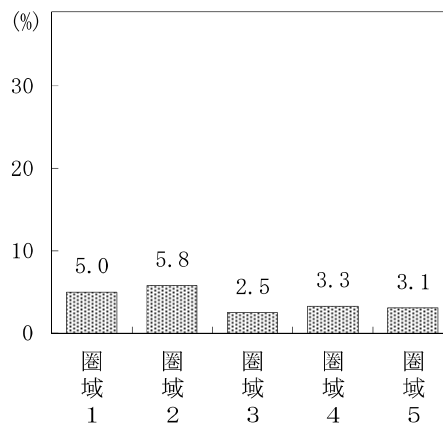
生活圏域別にみると、圏域2および圏域1がやや高くなっています(②)。

図表4-1 閉じこもりのリスク該当者の割合

①性・年齢別（一般高齢者）



②生活圏域別（一般高齢者）



■評価方法

以下の設問について、「いいえ」と回答した方をリスク該当者としました。

図表4-2 評価の基礎となった設問の回答状況

単位：上段=人、下段=%

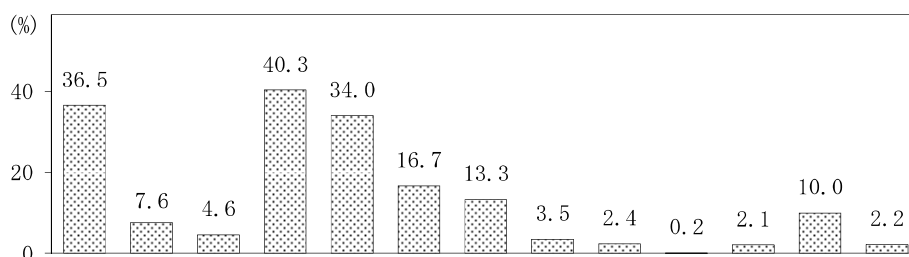
設 問	一般 高齢者	要支援 1・2	要介護 1・2	要介護 3～5
問2 Q 5 週に1回以上は外出していますか (いいえ)	n=1,276 7.1	n=116 27.6	n=146 34.9	n=89 64.0

○移動手段（複数回答）

外出する際の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が40.3%と最も高く、次いで「徒歩」（36.5%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（34.0%）などの順となっています。

図表4-3 外出する際の移動手段（複数回答）

単位：nは人、他は%



区分	n	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	
全体	1,727	36.5	7.6	4.6	40.3	34.0	16.7	13.3	3.5	2.4	0.2	2.1	10.0	2.2	
性別	男性	710	36.6	10.4	5.6	63.9	17.6	18.6	10.4	1.5	1.1	0.6	0.8	6.6	1.1
	女性	960	36.3	5.7	3.9	23.6	46.4	15.9	15.7	4.9	3.3	-	2.8	12.1	2.7
年齢	65～69歳	392	41.1	9.2	6.9	68.1	23.0	19.6	8.2	0.5	0.3	-	-	2.0	1.0
	70～74歳	369	42.5	11.1	5.4	55.8	24.7	21.7	13.8	1.9	1.4	-	0.5	5.7	0.3
	75～79歳	291	39.2	7.9	5.2	40.5	30.2	21.6	21.6	2.7	2.4	0.3	2.1	12.0	3.4
	80～84歳	252	36.1	6.0	3.6	25.4	42.5	15.9	16.7	3.6	2.0	0.4	4.4	15.1	2.4
	85歳以上	364	23.6	3.8	1.4	6.9	51.9	6.6	10.4	8.8	6.0	0.5	4.9	17.3	3.6
認定	一般高齢者	1,293	43.2	9.6	6.1	52.0	27.8	20.4	15.2	1.5	0.2	-	0.7	6.8	1.6
	認定者	434	16.4	1.6	-	5.5	52.5	5.8	7.8	9.4	9.2	0.9	6.5	19.6	3.9
世帯状況	一人暮らし	215	38.1	10.7	5.6	34.0	19.5	21.4	18.1	4.7	1.4	0.5	3.7	18.1	3.7
	高齢夫婦世帯	612	45.3	9.5	5.4	54.6	28.4	23.9	15.7	2.1	1.3	0.5	1.0	9.3	1.6
	その他の世帯	788	31.1	5.8	4.2	33.8	42.6	11.0	10.9	3.3	2.5	-	2.8	8.4	1.8
生活圏域	圏域1	216	45.4	18.1	3.7	33.8	31.5	17.1	5.6	4.2	4.6	0.9	2.8	16.2	3.2
	圏域2	207	30.9	2.9	6.3	42.0	36.7	13.0	15.5	3.4	2.9	-	3.4	7.7	1.9
	圏域3	502	43.8	9.2	3.6	43.0	31.7	22.9	12.4	3.2	1.4	-	1.8	12.0	1.4
	圏域4	434	31.8	1.4	5.1	44.9	32.9	12.7	18.9	3.7	1.2	0.2	1.4	7.1	2.1
	圏域5	338	31.4	10.1	5.3	36.4	37.6	16.0	12.1	3.3	3.6	0.3	2.7	7.4	2.7

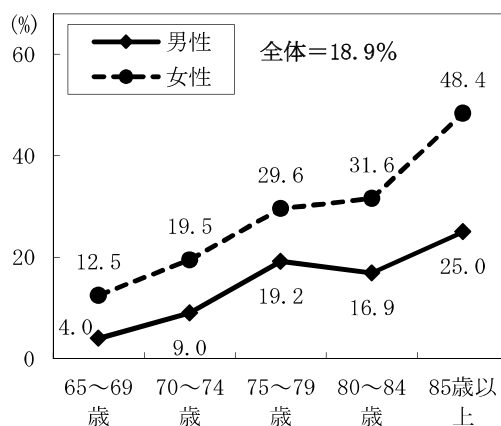
⑤ 運動機能の低下について（高齢者）

運動器の機能低下の評価結果をみると、一般高齢者の18.9%がリスク該当者となっています。男女とも年齢が上がるほどリスク該当者の割合が高くなる傾向にあります。全般的に男性より女性が高く、85歳以上では48.4%がリスク対象者となっています（①）。

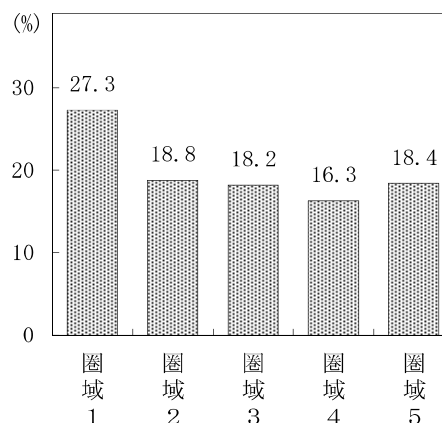
生活圏域別にみると、圏域1が他の圏域を10ポイント近く上回っています（②）。

図表5-1 運動器の機能低下のリスク該当者の割合

①性・年齢別（一般高齢者）



②生活圏域別（一般高齢者）



■評価方法

以下の設問について、問2 Q 1～3は「いいえ」と回答した方を1点、問3 Q 1、2は「はい」と回答した方を1点として合計し、3点以上をリスク該当者としました。

図表5-2 評価の基礎となった設問の回答状況

単位：上段＝人、下段＝%

設問	一般高齢者	要支援1・2	要介護1・2	要介護3～5
問2 Q 1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (いいえ)	n=1,249 39.6	n=116 81.9	n=142 90.8	n=88 96.6
問2 Q 2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (いいえ)	n=1,276 17.5	n=116 76.8	n=147 82.3	n=90 97.8
問2 Q 3 15分位続けて歩いていますか (いいえ)	n=1,276 15.0	n=113 64.6	n=146 74.6	n=85 96.5
問3 Q 1 この1年間に転んだことがありますか (はい)	n=1,280 19.0	n=115 54.8	n=147 55.8	n=88 63.7
問3 Q 2 転倒に対する不安は大きいですか (はい)	n=1,259 43.2	n=113 87.6	n=146 89.0	n=87 89.6

(注) 無回答を除く（以下、「評価の基礎となった設問の回答状況」において同じ。）。

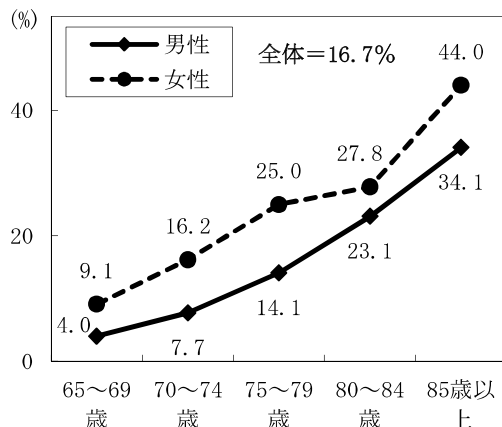
⑥ 転倒リスクについて（高齢者）

転倒の評価結果をみると、一般高齢者の16.7%がリスク該当者となっています。男女とも年齢が上がるほどリスク該当者の割合が高くなっています。全般的に女性が高く、85歳以上では44.0%がリスク対象者となっています（①）。

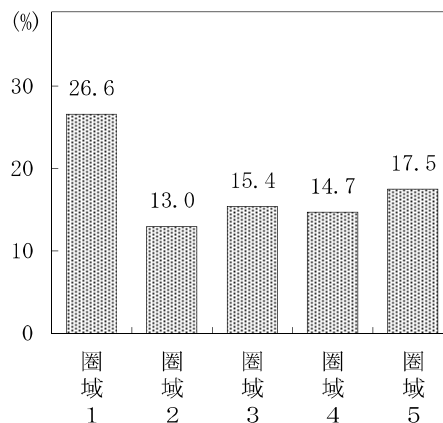
生活圏域別にみると、圏域1が他の圏域に比べて高く25%を超えています（②）。

図表6-1 転倒のリスク該当者の割合

①性・年齢別（一般高齢者）



②生活圏域別（一般高齢者）



■評価方法

以下の設問について、問3Q1は「はい」と回答した方を5点、問3Q3～5は「はい」と回答した方を2点、問8Q3は「5種類以上」と回答した方を2点として合計し、6点以上をリスク該当者としました。

図表6-2 評価の基礎となった設問の回答状況

単位：上段＝人、下段＝%

設問	一般高齢者	要支援1・2	要介護1・2	要介護3～5
問3Q1 この1年間に転んだことがありますか (はい)	n=1,280 19.0	n=115 54.8	n=147 55.8	n=88 63.6
問3Q3 背中が丸くなってきましたか (はい)	n=1,272 32.9	n=111 68.5	n=145 68.3	n=85 70.6
問3Q4 以前に比べ歩く速度が遅くなってきたと思いますか (はい)	n=1,283 55.7	n=113 90.3	n=144 93.1	n=75 93.3
問3Q5 杖を使っていますか (はい)	n=1,271 11.9	n=90 78.9	n=125 70.4	n=72 48.6
問8Q3 現在、何種類の薬を飲んでいますか (5種類以上)	n=1,196 21.8	n=114 55.3	n=143 60.8	n=90 50.0

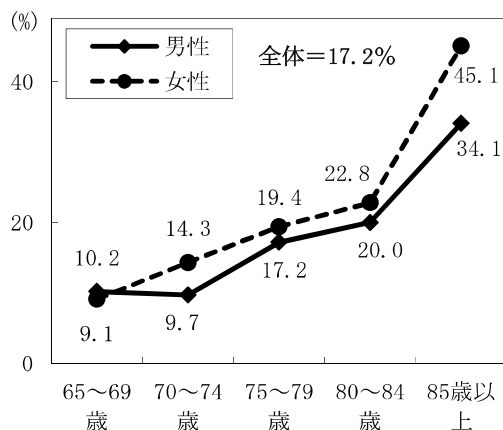
⑦ 認知機能低下について（高齢者）

認知機能の評価結果をみると、一般高齢者の 17.2%がリスク該当者となっています。全般的に女性がやや高く、男女とも年齢が上がるほどリスク該当者の割合が高くなる傾向にあります ①。

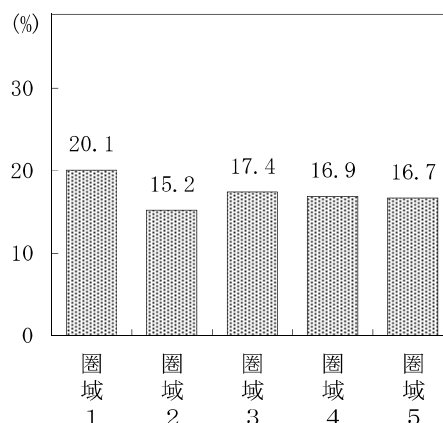
生活圏域別にみると、圏域 1 が最も高くなっています ②。

図表 7-1 認知機能のリスク該当者の割合

①性・年齢別（一般高齢者）



②生活圏域別（一般高齢者）



■評価方法

以下の設問について、問 5 Q 1、3 は「はい」と回答した方を 1 点、2 は「いいえ」と回答した方を 1 点として合計し、1 点以上をリスク該当者としました。

図表 7-2 評価の基礎となった設問の回答状況

単位：上段＝人、下段＝%

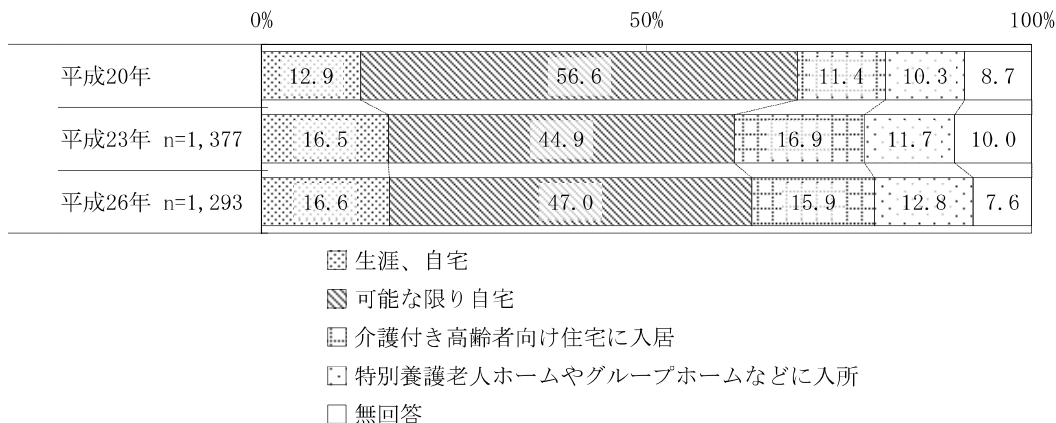
設 問	一般 高齢者	要支援 1・2	要介護 1・2	要介護 3～5
問 5 Q 1 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れ があると言われますか (は い)	n=1,241 18.3	n=118 39.0	n=148 60.8	n=89 64.0
問 5 Q 2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをして いますか (いいえ)	n=1,257 8.2	n=119 25.2	n=147 52.4	n=92 81.5
問 5 Q 3 今日が何月何日かわからない時がありますか (は い)	n=1,253 22.7	n=121 47.9	n=147 61.2	n=94 67.0

⑧ 介護について

○自分に介護が必要になったとき、介護を受けたい場所（高齢者）

「可能な限り自宅」が47.0%を占めており、「生涯、自宅」と合計した《自宅》は63.6%となります。過去2回の調査結果と比較すると、《自宅》以外を希望する率は上昇を続けています。

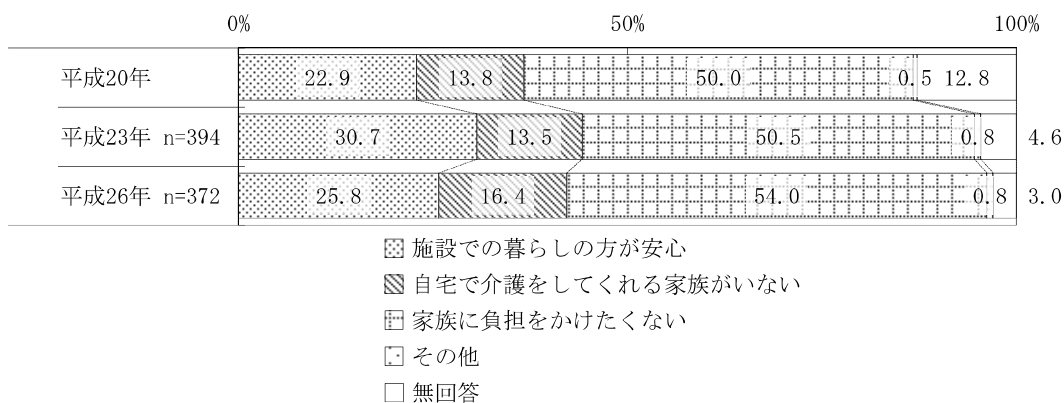
図表8-1 介護を受けたい場所



○高齢者向け住宅や施設などでの介護を希望する理由（本人の場合）

上記の設問で「介護付き高齢者向け住宅に入居」または「特別養護老人ホームやグループホームなどに入所」と答えた人に、それらを希望する理由をたずねたところ、「家族に負担をかけたくない」が54.0%を占めています。

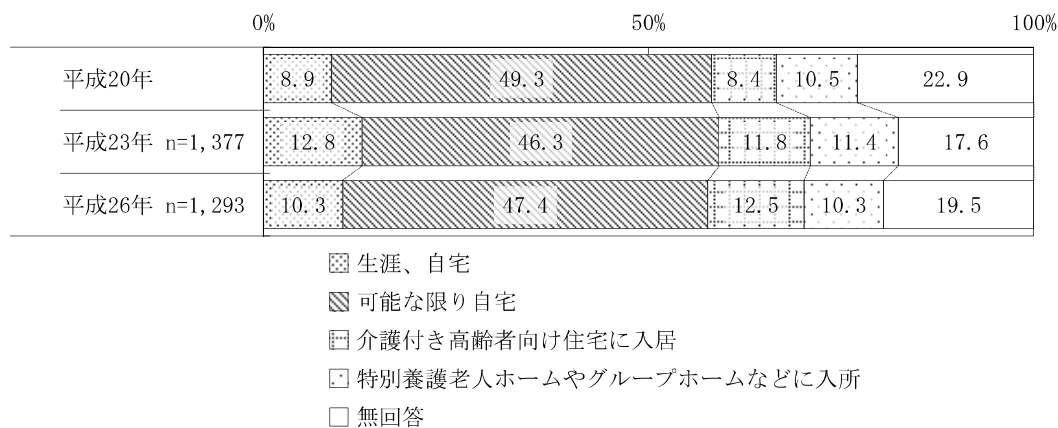
図表8-2 高齢者向け住宅や施設を希望する理由



○家族に介護が必要になったとき、介護を受けさせたい場所（高齢者）

「可能な限り自宅」が 47.4%を占めており、「生涯、自宅」と合計した《自宅》は 57.7%となります。自分に介護が必要になった場合と比較して、《自宅》を希望する率は 5.9 ポイント低下しています。

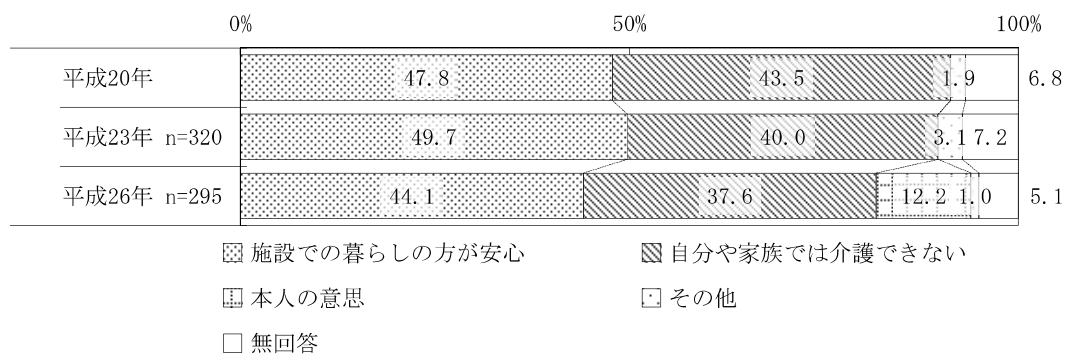
図表 8-3 介護を受けさせたい場所



○高齢者向け住宅や施設などでの介護を希望する理由（家族の場合）

上記の設問で「介護付き高齢者向け住宅に入居」または「特別養護老人ホームやグループホームなどに入所」と答えた人に、それらを希望する理由をたずねたところ、「施設での暮らしの方が安心」が 44.1%と最も高く、次いで「自分や家族では介護できない」が 37.6%、「本人の意思」が 12.2%となっています。

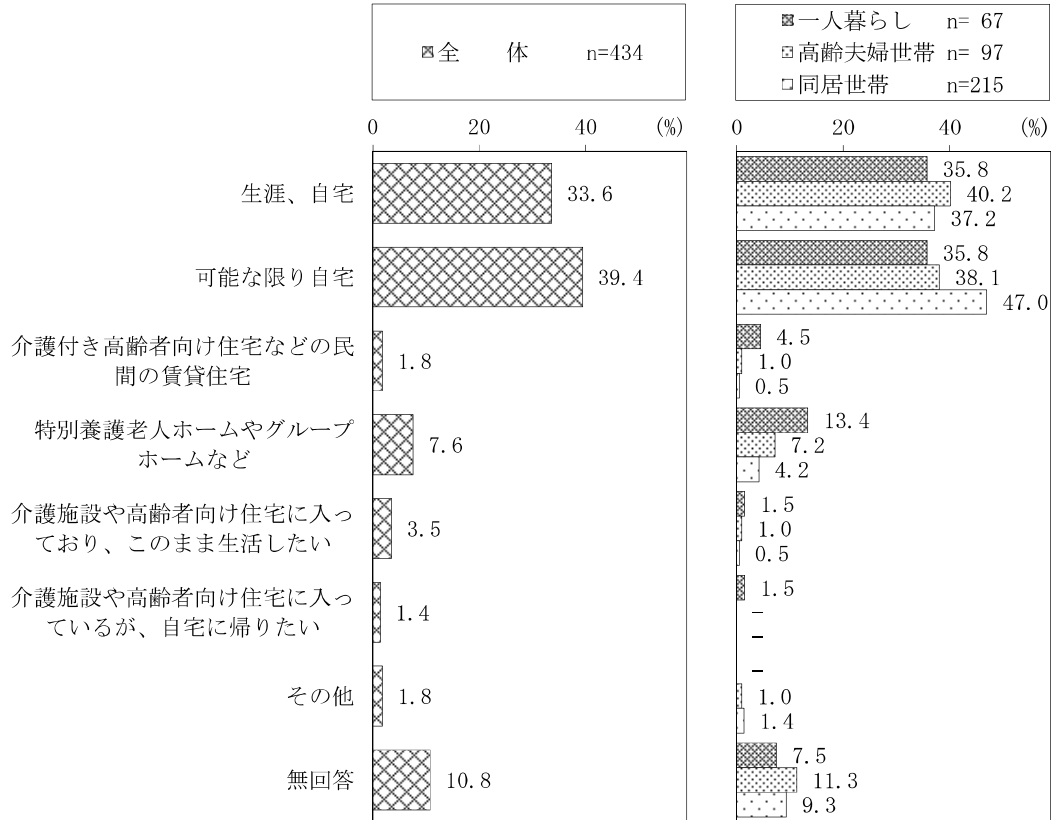
図表 8-4 高齢者向け住宅や施設を希望する理由



○今後の生活場所としてどこで生活したいか（要介護認定者）

「可能な限り自宅」が39.4%と最も高く、「生涯、自宅」（33.6%）との合計《自宅》は73.0%となります。

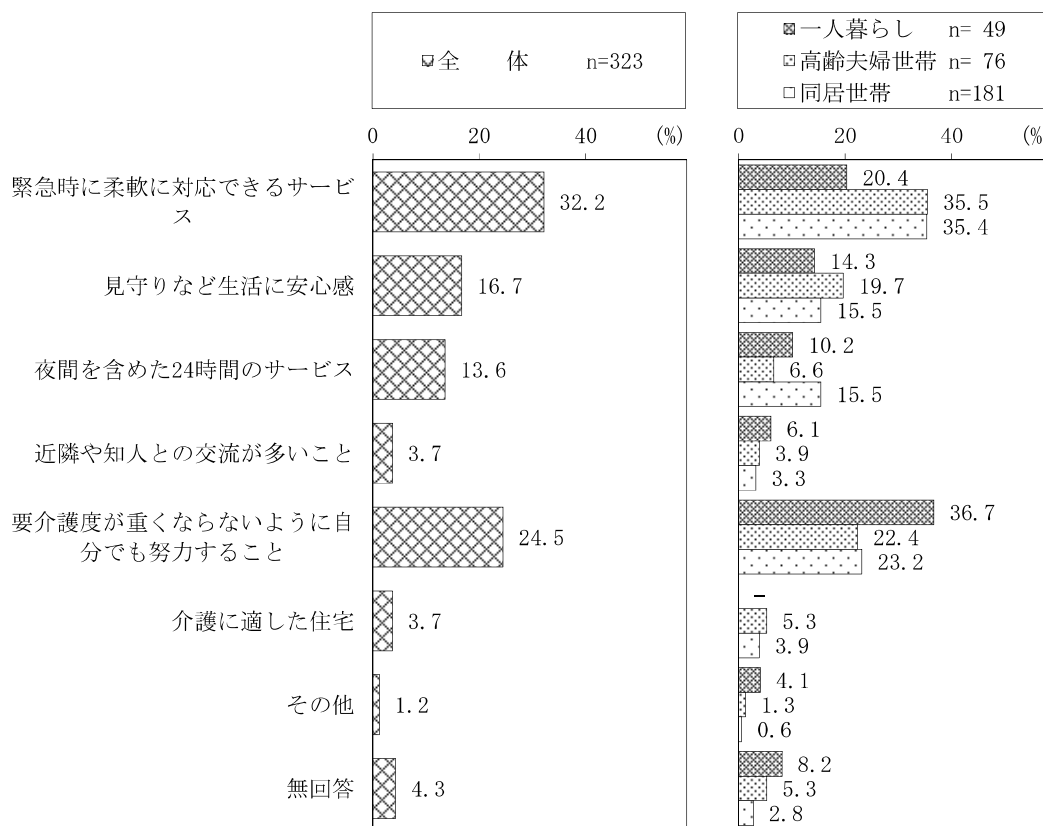
図表8-5 今後、どこで生活したいか



○自宅で生活するために、必要なものは何か

「緊急時に柔軟に対応できるサービス」が 32.2%と最も高く、次いで「要介護度が重くならないように自分でも努力すること」が 24.5%などとなっています。

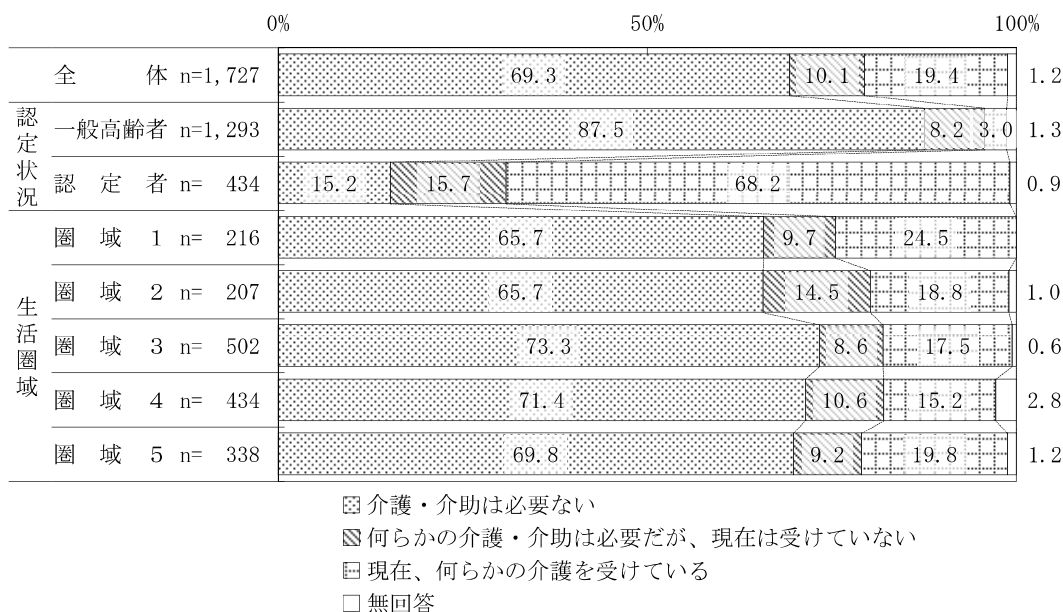
図表 8-6 自宅で生活するために必要なものは何か



○介護の必要性

普段の生活で介護・介助が必要かをたずねたところ、全体では「介護・介助は必要ない」が 69.3%を占めていますが、認定者では「現在、何らかの介護を受けている」が 68.2%を占めています。

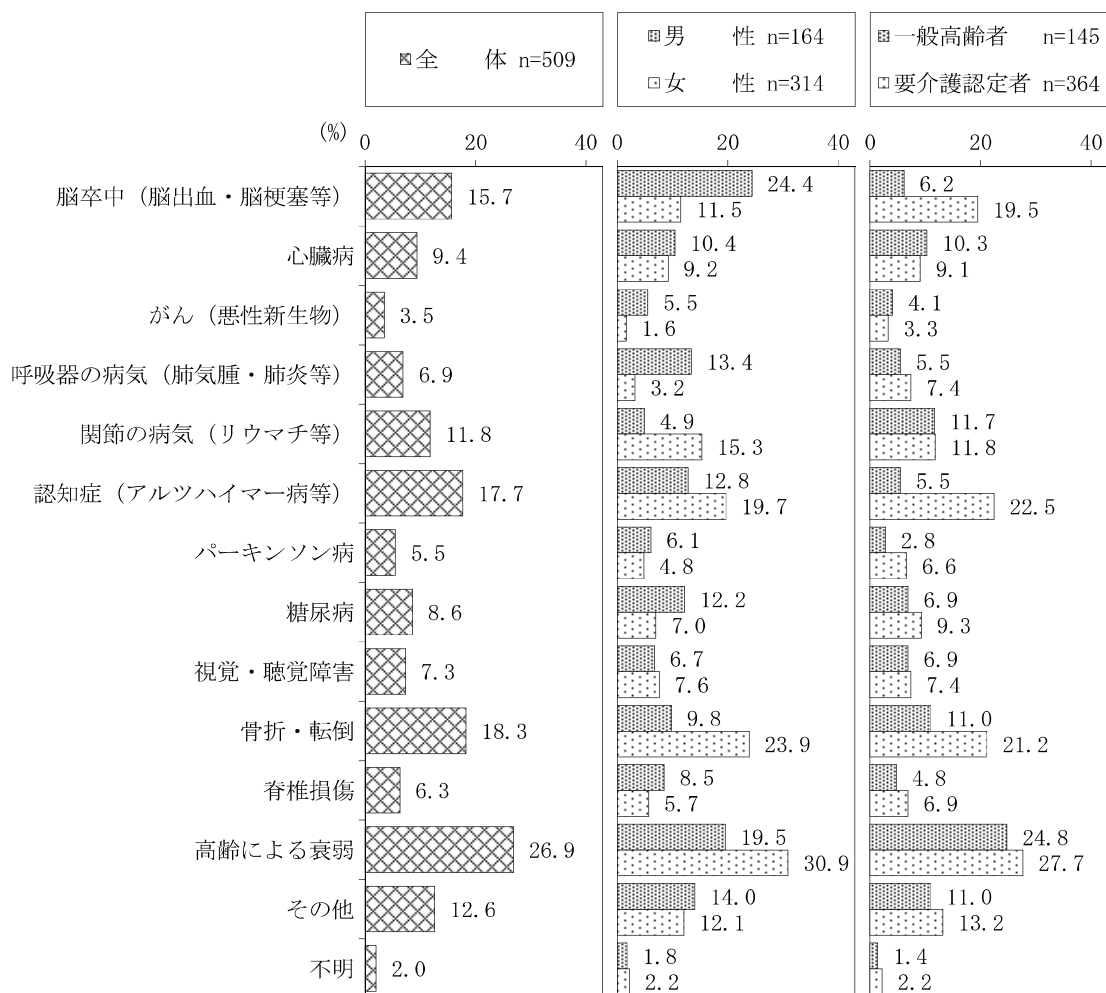
図表 8-7 介護・介助の必要性



○介護が必要になった主な原因

上記の設問で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と答えた 509 人に、介護・介助が必要になった主な原因をたずねたところ、「高齢による衰弱」が 26.9%と最も高く、次いで「骨折・転倒」が 18.3%、「認知症（アルツハイマー病等）」が 17.7%となっています。

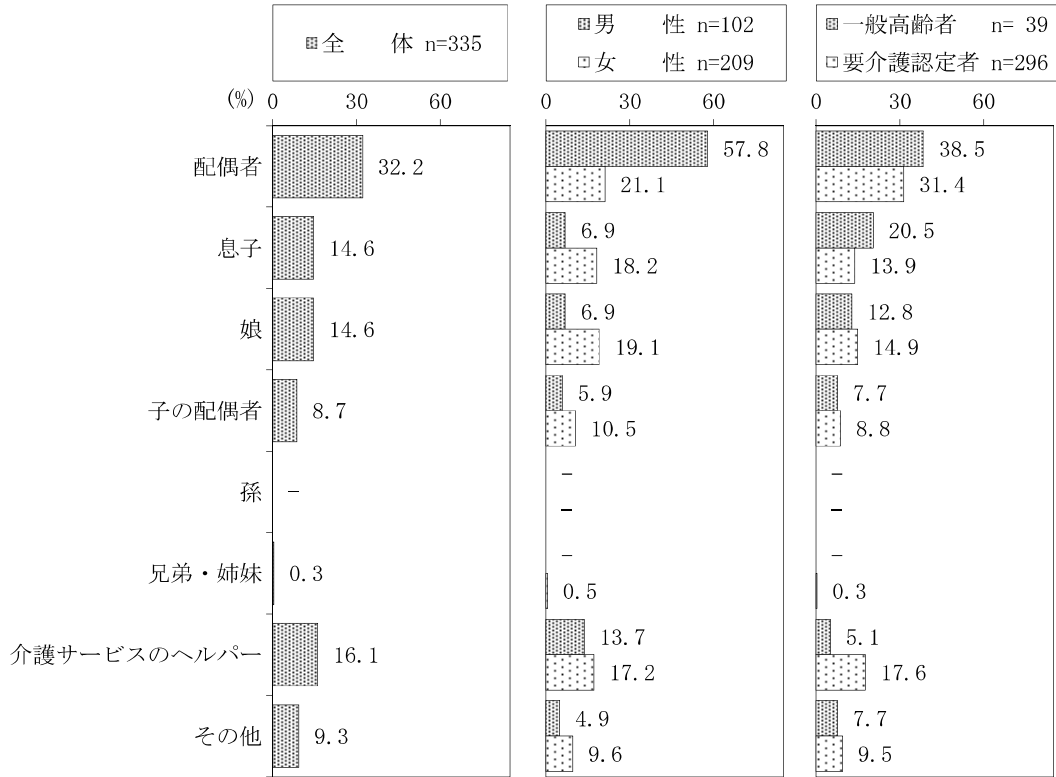
図表 8-8 介護・介助が必要になった主な原因（複数回答）



○主な介護者

「現在、何らかの介護を受けている」人の主な介護者は、「配偶者」が 32.2%と最も高くなっています。

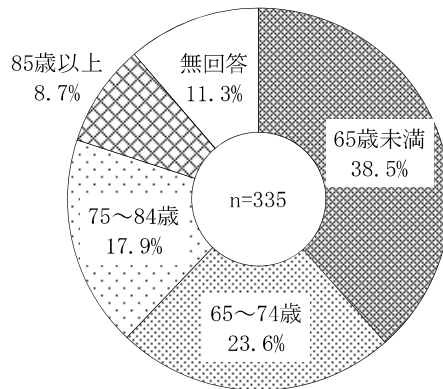
図表 8-9 主な介護者



○主な介護者の年齢

「65歳未満」が 38.5%と最も高く、次いで「65～74歳」が 23.6%、「75～84歳」が 17.9%、「85歳以上」が 8.7%となっています。

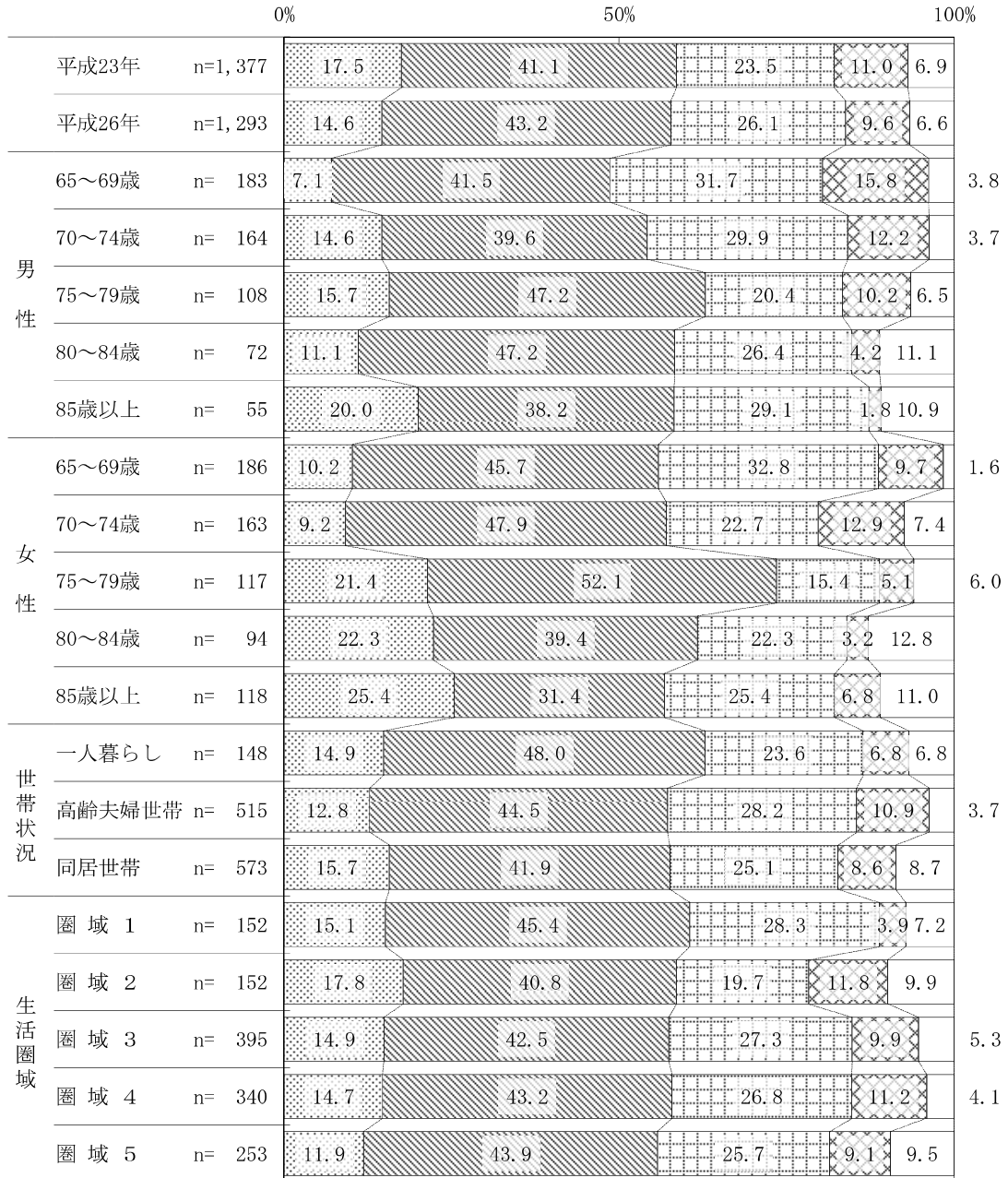
図表 8-10 主な介護者の年齢



○介護が必要になることへの不安（高齢者）

「近い将来（3年程度以内）、自分や家族が、介護が必要な状態になることへの不安はありますか」という設問に対しては、「少し不安である」が43.2%を占めており、「とても不安である」と合計した《不安》が57.8%となっています。平成23年の調査結果に比べて、《不安》はわずかに低下しています。

図表8-11 介護が必要になることへの不安

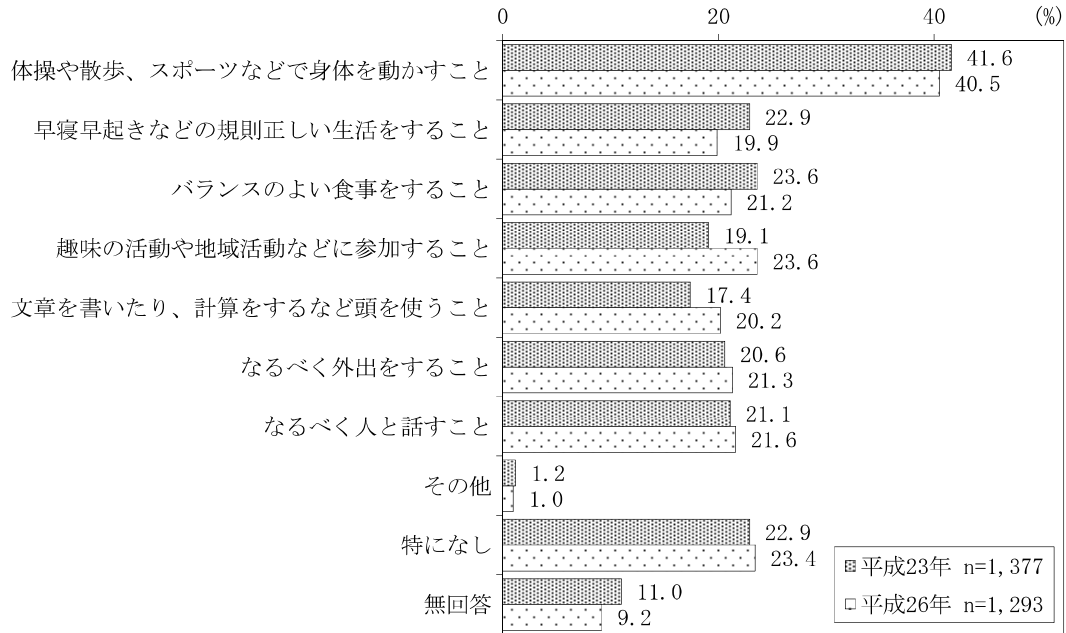


☒ とても不安である ☑ 少し不安である ☐ あまり不安はない ☒ 不安はない ☐ 無回答

○必要と思いつながらできていないこと（高齢者）

元気でいるために必要と思いつながらできていないこととしては、「体操や散歩、スポーツなどで身体を動かすこと」が40.5%と最も高くなっています。

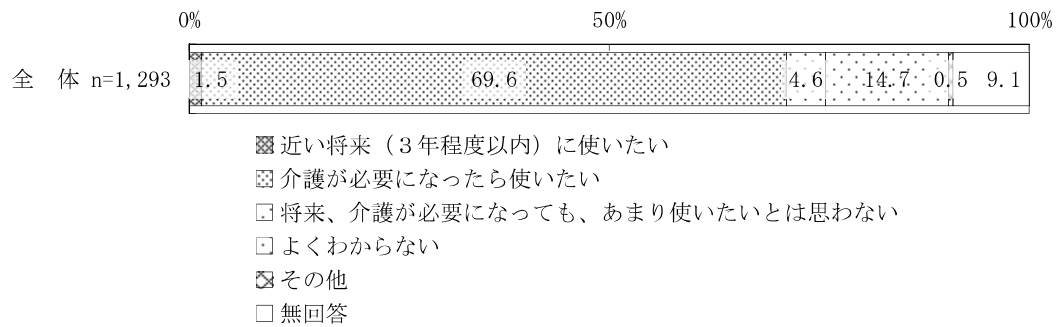
図表8-12 必要と思いつながらできていないこと



○介護保険サービスの利用意向（高齢者）

介護保険サービスの利用についての考えをたずねたところ、「介護が必要になったら使いたい」が69.6%を占めています。

図表8-13 介護保険サービスの利用意向

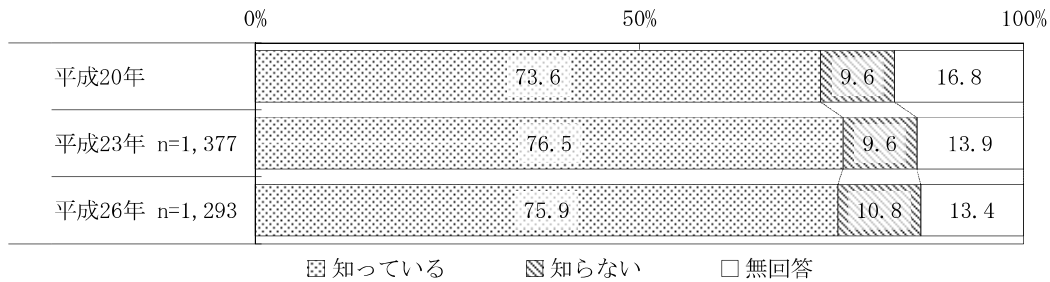


○介護保険制度の認知度

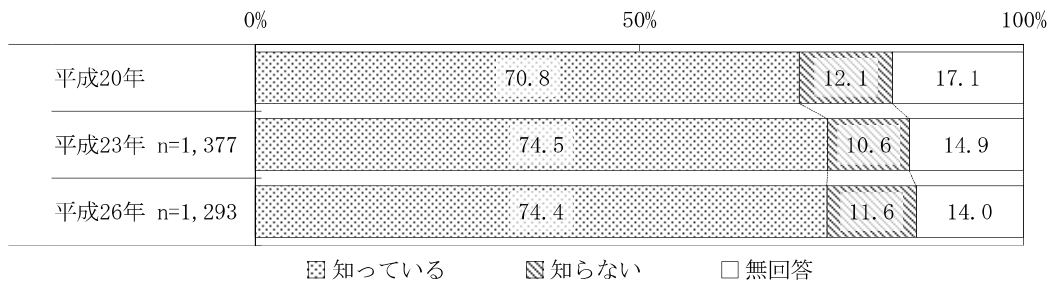
図表8-14は、介護保険制度について知っていることをたずねた結果です。平成23年の調査結果と比較して、『⑥介護保険料は介護サービスが充実すれば高くなる』の認知度はわずかに上昇していますが、それ以外の項目はわずかに低下しています。

図表8-14 介護保険制度の認知度

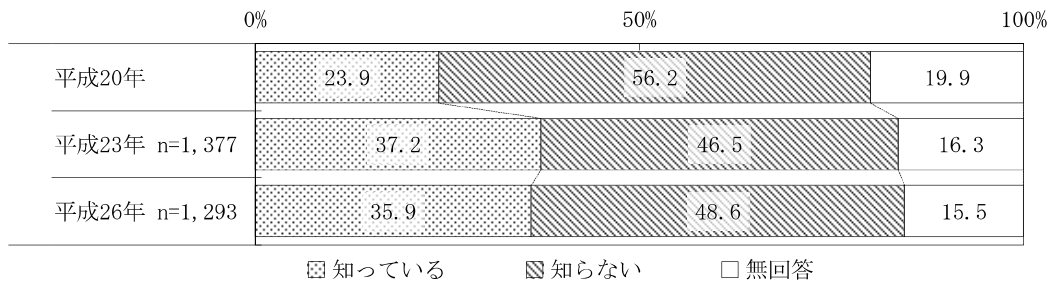
① 介護保険制度は、介護を社会で支える仕組みである



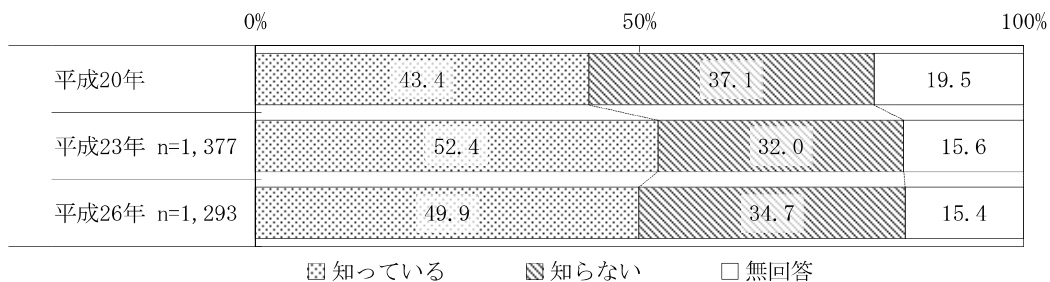
② 介護保険の利用には、要介護認定を受ける必要がある



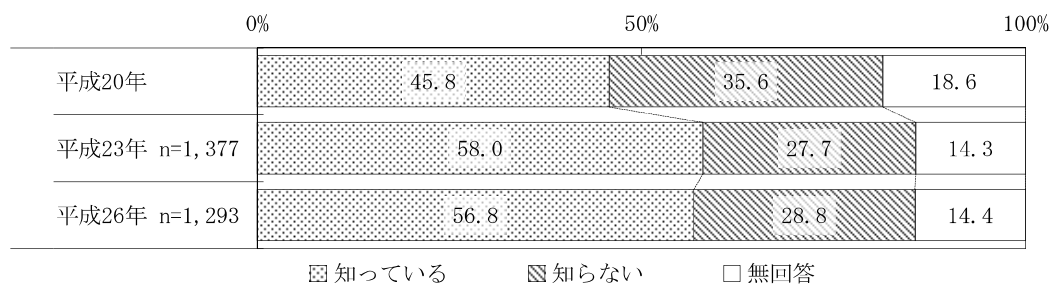
③ 介護保険のサービス内容について



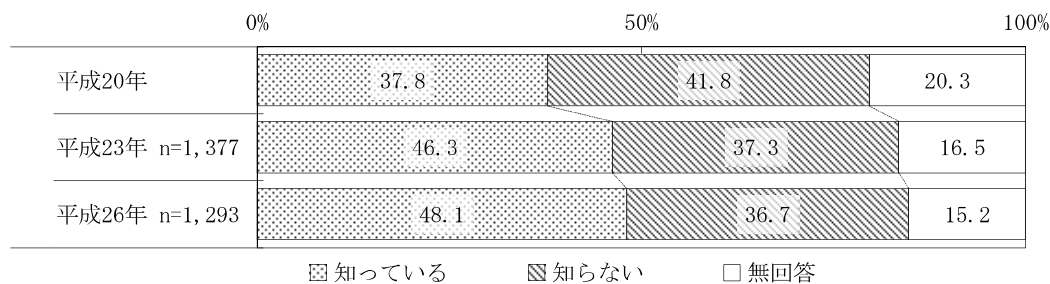
④ 要介護度に応じて支給限度額が決まっている



⑤ 介護保険のサービスを利用には、1割の自己負担がある



⑥ 介護保険料は介護サービスが充実すれば高くなる

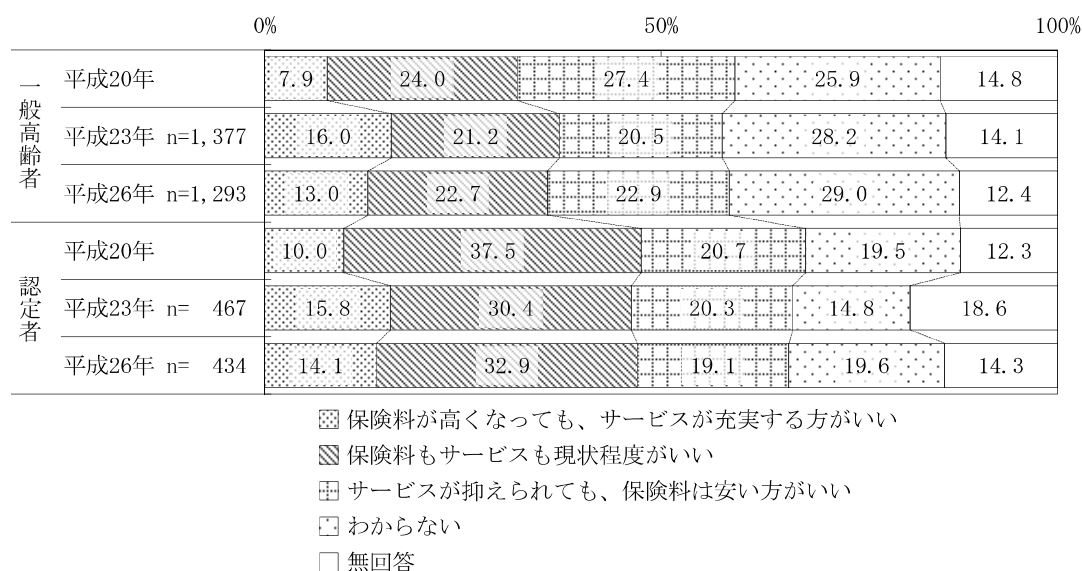


○介護保険料のあり方

介護保険料とサービスのバランスについてたずねたところ、一般高齢者は「わからない」が29.0%と最も高く、次いで「サービスが抑えられても、保険料は安い方がいい」が22.9などとなっています。

認定者は「保険料もサービスも現状程度がいい」が32.9%と最も高くなっています。

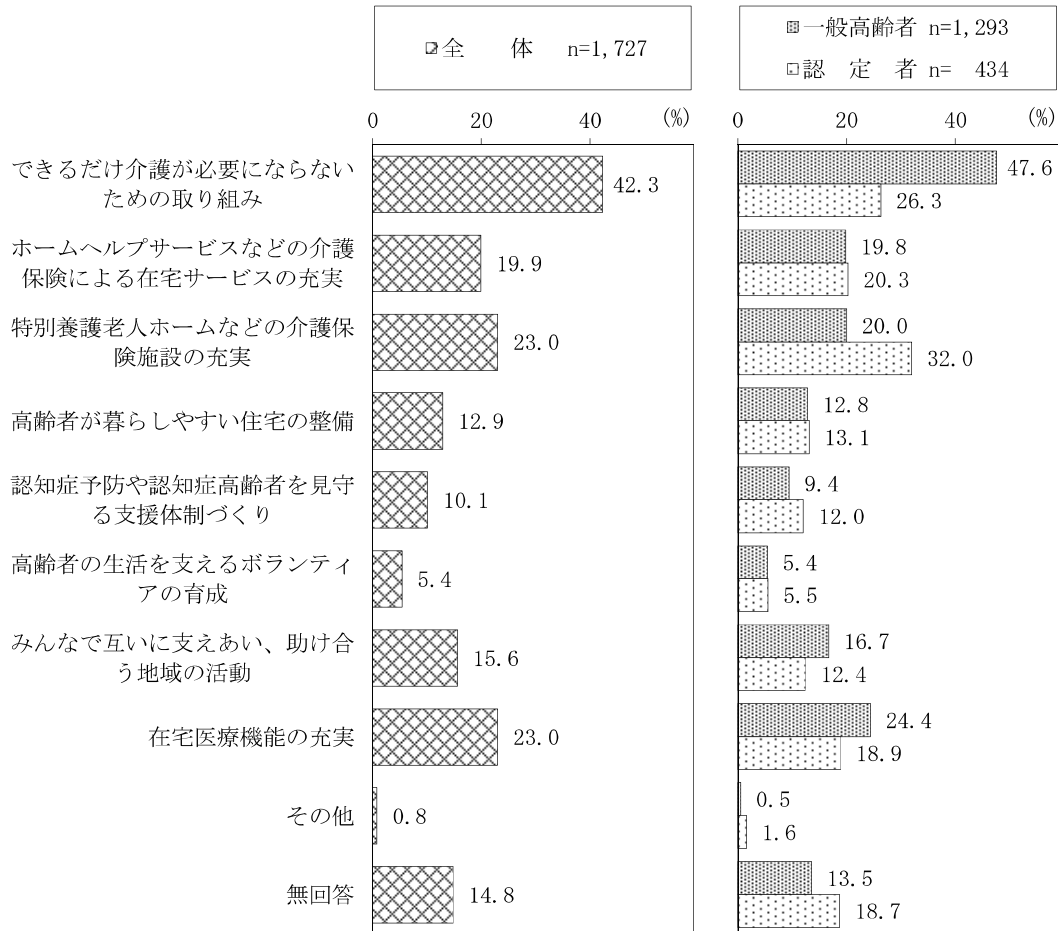
図表8-15 介護保険料のあり方



○超高齢社会に重要な取り組み

超高齢社会に重要な取り組みとしては、「できるだけ介護が必要にならないための取り組み」が42.3%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護保険施設の充実」および「在宅医療機能の充実」がともに23.0%などの順となっています。

図表8-16 超高齢社会に重要な取り組み（複数回答）



○行政に望むことは（要介護認定者）

介護保険制度に関することで行政に望むことは、「特別養護老人ホームなどの入所施設を増やしてほしい」が37.1%と最も高く、次いで「介護保険制度に関する情報をわかりやすく提供してほしい」が32.0%、「低所得者世帯への支援を充実してほしい」が28.1%などの順となっています。過去2回の調査結果と比較して、全般的に高くなっています。

図表8-17 行政に望むこと（複数回答）

